

自分らしい生き方を

体や将来の悩み共有

高崎で女子学生らイベント

若い世代の女性がより健康で自分らしい生き方ができるよう、地域の学校、医療福祉、行政関係者でネットワークづくりを目指すイベントが、高崎市の高崎健康福祉大で開かれた。テーマは「未来の自分へ送る 自分らしく生きるためのヒント」。中高生や大学生ら約80人が参加し、関係者を交えながら悩みを相談したり、将来について考えたりして交流を深めた。

参加者は5人程度のグループに分かれ、自身のキャリアについて考えるワークショップを実施。紙に年齢と満足度を書いて、自身の過去、現在、未来を振り返った。

続いて「教えてドクター みんなが知りたい性のこと」と題し、産科婦人科館出張佐藤病院(同市)の佐藤雄一院長とヒルスレディースクリニック(前橋市)の嶋田英公子副院長が登場した。参加した女子学生からは、生理や出産の悩み、HPVワクチンなどについて質問が相次いだ。

企画に携わった、桐生大2年の板場美帆さんと高崎健康福祉大2年の浅見美咲さんは「自分らしく生きるために人生を振り返った

学生らが自分らしい生き方などについて話し合った

り、将来を想像したりしてもらえたら」と話した。

地域で「顔の見える関係」をつくって若い世代の女性を支援する狙い。一般社団法人日本女性財団(東京都)が主催し、県内初の「群馬フラットフォーム連絡会」と題して開催した。高崎健康福祉大、県立真田健康科学大、桐生大の学生でつくる「群馬ピア」がイベントを運営した。

(稲村勇輝)

2025.3.31 上毛新聞

刀博飾ス

四

絵の前に並び、